

ちいき みぢか ぼうさいりょく れきし かんきょう まな 地域で身近な防災力（歴史・環境から学ぶ）について

ぜんかい 前回までのおさらいと今後の審議方針の検討

しんぎてーま 審議テーマ	だい かい 第3回みんなのまちづくり部会で出された意見	きそん しりょう 既存の資料
	<p>ア 臨海部の災害への対策を知る必要がある (ア)川崎区民にとって心配なのが臨海工業地帯だと思う。災害時の火災や有毒ガス、原子炉等が怖い。万が一震災が起きた時、川崎市はどのような対策をしているのか知りたい。 (イ)東扇島が防災拠点になっているが、海底トンネルが水没すると、救援物資の拠点として機能を果たせなくなるのではないか。 (ウ)東扇島にヘリコプターで物資を降ろし、船で持ってくる訓練を実際にやっていた。そういった情報が区民の皆さんにまだ伝わっていない。</p>	<p>とうきょうわんりんかいぶ きかんてきこういきぼうさいきよてんありあけ おか ・東京湾臨海部における基幹的広域防災拠点有明の丘 ちく ひがしおうしまちく ばんふれつと 地区・東扇島地区（パンフレット）</p>
<p>1 ちいき みぢか ぼうさいりょく れきし かんきょう 地域で身近な防災力（歴史・環境 から学ぶ）</p>	<p>イ 誰でも見やすいハザードマップを作成する必要がある (ア)ハザードマップがあるが、色分けが大変わかりづらい。対照的な色で書いてくれないとわかりづらい。</p>	<p>たまがわこうずいひなんちず たまがわこうずいはざーどまっぷ ・多摩川洪水避難地図（多摩川洪水ハザードマップ）</p>
<p>(1) さいがいじ あんぜん ひなん 災害時に安全に避難できるように するため、かわさきく れきし かんきょう 川崎区の歴史や環境の してん ぼうさい かんが ひつよう 視点から防災を考える必要がある。</p>	<p>ウ 誰でもすぐに現在位置、避難場所及び避難所の運営方法がわかる仕組みが必要である (ア)外国人や最近川崎市に移住してきた人は、避難所になっている学校名だけ出しても分からない。例えば、町内会の掲示板に地図を貼り、現在位置を示す必要がある。 (イ)避難時にどこに何があるのかわかる仕組みが必要である。今は、スマホとかパソコンを個人が1台持つ時代なので、ここを見れば、どこに行けばわかるような情報提供もしてもらいたい。 (ウ)我々が、議論しなくてはならないのは、「自助」「共助」の方だと思う。たとえば自主防災組織のDVDを各町会に配って、皆の目に触れるようにする必要がある。</p>	<p>かわさきしぼうさいまっぷ かわさきく ・川崎市防災マップ川崎区 かわさきくぼうさいまっぷ かこくごたいおう ・川崎区防災マップ（6ヶ国語対応） ひなんじょうんえいまにゅある ・DVD「避難所運営マニュアル」 えんかつ ひなんじょうんえい ひなんじょうかいせつくんれん ・DVD「円滑な避難所運営ために～避難所開設訓練のすすめ～」</p>
	<p>エ 学校や地域との連携を強くする必要がある (ア)学校の校門と屋上が1つの鍵で開くところがあり、また町会の役員さんが鍵を持っていて何かあった時に開けられるようになっている。地域の人が鍵を管理しないと災害が起きた時に間に合わない。</p>	